感激を今後の努力へ

組合創立記念式典に参加して

本所七夕分会　中原千春

二月五日延命体育館に於て開催された、三池労組創立二十周年の式典の席上宮川組合長、及び各来賓の方々によって、三池主婦会の活動は大きく評価され、私達一同その暖かいねぎらいの言葉に日頃の労苦を忘れ、感激にむせびました。でもそれと同時に、いつも私達を力強く激励し支援して下さった全国のオルグの皆さんとの交流を忘れる事は出来ません。

峻烈を極めたあの三池大争議を「一歩後退二歩前進」のスローガンのもとに、やむなく闘争を終結したあと、私達は苦しい闘いを続けてまいりましたが、全国の仲間は共に悲しみ共に怒り、励して下さいました。私達もまた来山されるオルグの方々を通して、他のすべての産業にかけられる資本の攻撃を理解することが出来るようになりました。

会社の、人権を無視した低賃金政策により、私達は苦しい家計を切り抜ける為心ならずも内職をはじめました。

山の様な家庭の主婦としての仕事を持つ上に一職場人として勤めをする事は、主婦のみか主人や子供達。老人にも、精神的肉体的に過当な負担をかけています。

主人が好きな晩酌のためのお酒が買えなくて泣いた日、熱のある子供を家に残して内職に出た木枯らし吹く日……。でも、どんな苦しみにも耐えてこられたのは、第一組合員としての主人に対する信頼と、いつも三池を見守っていて下さる全国の仲間の方達との、強い連帯があったからだと思っています。

此の度の総選挙では、望む私達の代表が伸び悩みの感があります時、私達は一層オルグの方達との交流を深め、全国に三池のたたかいを拡大する努力をすべきだと思います。これがみんなの幸せにつながるものだと信です。

全国の労仂者の皆さん、オルグの皆さん、これからも宣敷くお願いします。

＝詩＝

みいけの歴史はおれたちが継ぐ

宮浦　高椋龍生

頑張っている
子ども

この子たちは
「みいけ」のたたかいを
じっと見つめている

『みいけの歴史は
おれたちが継ぐんだ』

畑中さんの死を悼む

宮浦　森川久美子

一月二十四日朝、宮浦鉱での落盤の大事故を知り驚きました。組織上どっちだろうと、人間の死に区別はありません。同じ労仂者です。

午後のニュースで、死亡者の写真がでました。再び驚きました。弟の友だちで、朗らかだった畑中さんとわかったら、怒りが倍になって体の血がさかまくのを覚えました。不当な差別、切りくずしのはげしい資本合理化の嵐の中で、畑中さんは二度といえることのない、尊い犠牲にされてしまわれました。

私たちは、命と引き替えの合理化には絶対反対です。書いているうち眼頭が熱くなり、こみあげるにくしみと悲しさが入りまじり、書面の字もうすれ、何度書きなおしたかわかりません。畑中さん、残念だったでしょうね。

労仂者として、ほんとうの幸せのくる日をのぞみながら、苦しみに負けず勇敢にたたかわれた畑中さんの霊に対して、私たちは報いなければならないと思います。

三池闘争以来数百人の同志の命を奪った合理化の波にのみこまれ人間本来の姿を見失う人がちらほら見受けられ残念でなりません。それに対して「どんなはげしい攻撃にも負けるものか」という心意気と誇りを持って、ともにスクラムを組んで前進してゆきましょう

仲間の胸にたぎる思いは……
〃団結〃の尊さと〃三池〃の誇り

よる　おそくなって
ねむるとき
いつも
かあちゃんと語りあうのは
子どもたちのこと

うだるように暑い日も
しびれるように寒い日も
勉強のかたわら
わたしたちの
たたかいの
小さな
手となり　足となって
夕食つくりに　機関紙配りに

と子どもたちは言う
この子のしあわせのため石にかじりついても
『がんばろうね』
『がんばろうや』
と励ましあう
ふたり。

（一九六五・一一・九）

詩

愛の想い出

聞場新職〃前線〃より

生まれて初めてのキス
「恥しい」と顔を伏せる
肩は寄せ合ったが
手にもつ傘がじゃまだ

いやに歯ばかりが合う
甘い香りが心地よく匂う

幾度も夢に描いた
人生の美しい時

抱き合ったこの気持のまま
いつまでも生きてゆこう
わき立つ心で決意する

だが……
それから三カ月

「炭鉱男はイヤ」
暗い暗いムードに包まれて
〃宣言〃した愛する彼女

俺の悶々の日が続く

ああ——
生命を奪う
冷酷非道な合理化の渦
のしかかる圧迫

ぎりぎりの生活
動物にも劣る悲惨と残虐

血と汗にまみれて
人間らしく生きること
「団結、抵抗、統一」〃解放〃
この道を歩く厳しさ
それと共にある
〃尊さ〃と〃誇り〃と

まがりなりにも
わかってくれた喜び

この言葉はすでに飾れない
「苦労が先に立つよ
でも二人して努力しよう」

幸せは信頼から生まれるのだ

今日もまた頭の中にいて
「真実の道を強く生きよ」
とはげます

そっとふり返えると
あたたかくほほえむ
あの日——

×　×

▼…この詩は、四山支部の職場五分会の職場新聞〃前線〃（NO3）から紹介しました。三池ではいまそこかしこの職場で地域で、労仂者の新聞が生み出されています。それこそ労仂者の生命の火です。大切に育ててゆきましょう。

また発行された新聞は、必ず本部の編集部あてに、なるべく多数お送りください。お互いの交流を拡げるのに役だて、この火が燎原を焼くいきおいで燃えあがるよう努力したいと思っています。

——みいけ編集部

子供たちへ残すもの ⑰

朝……もう少し早く起きて

四山・宮内社宅
高向宗美子さん（30才）

闘争後に変つた

もう結婚して九年になり、子供も二人になりました。

闘争直前の三十三年に恋愛のあとゴールイン。私より両親の方が気に入ってすすめたくらいだったので、不安はありませんでした。

でも結婚直後から一万円生活や一万円ボーナス、分割払いなど、満足に給料をもらったためしがありませんし、ただでも低賃金の測量工のあなたが、差別をうけて家計は私の内職でやっと。

レジャーなどどこの世界のはなしだと思うことがあります。しかし、これはあなたが悪いのではありません。

そのほかは、私の仕事の送りむかえ、子供の世話、家庭の仕事など全面的に協力してくれるので、あなたの方からは「一言」があったとしても、私の方からは何もいうことがありません。

とくに三百十三日のたたかい以後は、家庭を大切にするようになりましたね。闘争前までは夜は十一時ごろまで、碁やトランプをして遊んで帰っていたのに。

子供が大きくなったとき

私がセールスの内職に出るようになって二人が顔を合わせる時間がないので、たまにひまな夜はあなたのギターに合わせて、二人で心ゆくまで流行歌から民謡まで歌うのがとてもたのしみです。

私の家は兄たちが二人とも第二組合に脱落しているのでいろいろな方法で説得が多い。しかしあなたがあまり無口なので、私が「あまり金が少なかときつかョ」とカマかけてみたら、あなたは、きっぱりと「よかやっか、ありどんは体ばすりへらしよるとじやけん。子供が大きくなったとき、お父さんはこげん頑張って労仂者として正しかこつばやり通したと、話してやる。それが、おれたちが子供に残してやれる、たった一つの財産たい」

私は、本当に安心しました。

朝だけはもう少し早く

最後に、ほめてばかりでは申し訳けがないので、注文を一つ。あなたも地域や職場のことで夜おそくなって朝がねむいことはよくわかりますが、もう少しだけ早起きしてくれたらと思います。

最後に、畑中さんのご冥福を心からお祈り致します。

人を信じるという事はとてもむつかしい

でも……
信じ合ってゆこう
しあわせ勝ち取る日まで

「ああ、よくここまで、お互いを信じながら頑張って来たね」と、喜びを分かちあう日のくることを信じながら。